

装飾性に優れたタオルマフラー

- タオル製品デザイン企画手法開発研究 (S45~) -

愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 石丸 祥司

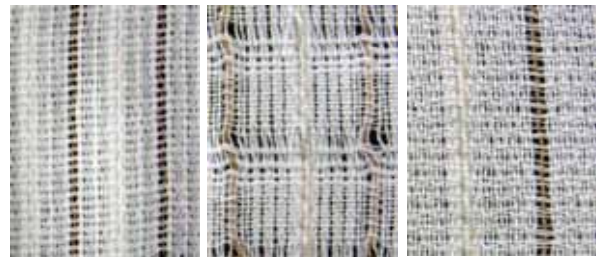
今治地域の特徴ある撚糸技術やジャカード織り技術、染色加工技術を活用した装飾性に優れたタオルマフラー製品を試作しました。

軽量薄地タオルマフラー

風合いに注目し、素材、織り組織、織物企画を検討し、薄くて軽く、装飾性に優れた製品に仕上げました。

従来のタオルマフラーでは使用されてなかった織り組織（しじら組織、梨地組織）を利用しました。

パイルの代わりにループ糸使用による立体感を演出しました。綿と合成繊維を使用し、反応染料の染色性の違いを利用することで、濃淡差による装飾効果が得られました。



しじら変化組織 1 しじら変化組織 2 梨地変化組織



軽量薄地タオルマフラー生地

3重織りジャカードタオルマフラー

ジャカードによる多様な織り表現が可能な多重織りに注目した3重織りジャカードタオルマフラー生地

3重織り織物は、「織物1」と「織物2」及びそれらに挟まれた「ジャカード織りA」で形成。粗い密度で「織物1」と「織物2」を形成し、内部の「ジャカード織りA」の柄が表面の織物を通して透けて見えます。

透け感を活かした多様な色彩効果を持つ3重ジャカード織りは、絹やポリエステルなど細い繊維を使用した織物ではよく見ることができませんが、それよりも太い繊維である綿糸を使用するタオルマフラーにおいても有効であることが確認できました。



3重ジャカード織りタオルマフラー生地



試作品事例

透け感を活かした多重織り織物という視点で捉えると、非常にたくさんの応用、バリエーション展開が可能になります。タオルマフラー市場は、今治地域の得意分野であるジャカード織り技術や高度な製織技術を活用すれば、さらに拡大可能と考えられます。